

牛石^{うし いし} — 川尻 —

その昔、川尻^{こうおうじ}の興王寺に、牛石、虎石、猿石の名石があり、村人たちの間でたいへんな評判になっていました。

ある日、伊勢国司^{いせ ことし}北畠^{きたはたけ}具教^{ものり}が、
「わしのやかた（一志郡美杉村）へこの名石を持っていきたい。」
と申し出しました。

さっそく家来は船で運ぼうとしましたが、虎石、猿石は運べても、牛石はなんとも重くて運ぶことができません。

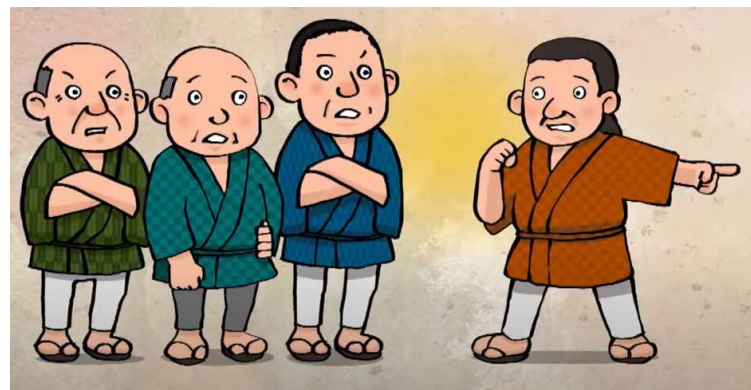
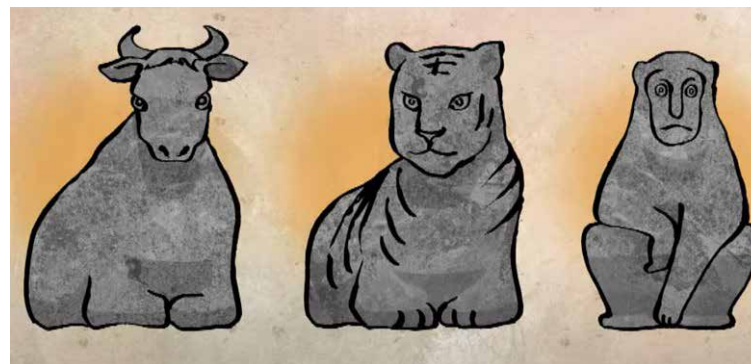
「このままでは船も沈んでしまう。」

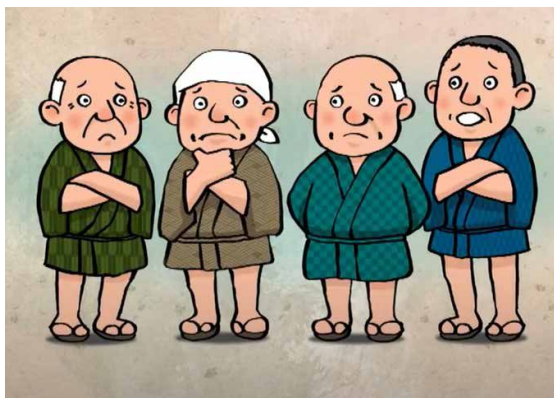
と牛石だけは浜へ捨てていくことになりました。

さて、捨てられた牛石、波に打たれているのを村の文平^{ぶんぺい}さんが見つけました。

「牛石じゃ こんなところに捨ててあったのでは、ばちがあたる。」

と思った文平さんは、村の人達に話し、皆で家まで運ぶことになりました。





そして
「牛神じゃ ^{こうざ}高座にあげよう。」
と言って^{まつ}祀りました。

ところがそれからどうした訳か、村の牛がつぎからつぎへと死んだのです。

「どうしたもんださ。」

「悪い病気かのう。」

村人たちは百姓をするにもこまってしまいました。

そんなある夜、文平さんが夢をみました。

「わしゃー牛神さまじゃとみんなが高座で祀ってくれるんはうれしいが、わしゃー牛じゃ、下座の方が寝ごちがええがのー。」

という牛神のおつけがありました。

文平さんは成る程と気がつき牛石を下座に置いて祀りました。
すると牛の病気はすっかりなくなり、川尻の牛は元気に育ったということです。

少しまえまでは、毎年八月二十八日には、牛石に御神酒をあげて祀った行事も、農業の近代化で牛が絶えてからは、消えてしまいました。



牛石は、現在川尻自治会の
^{じょうじゅいん}成就院の敷地にあります。

キーワード：みんな、川尻、牛石